

医療の現場からいのちについて考える／老いるということ

仙台医療センター 高橋通規

去る平成 28 年 7 月 14 日、増田中学校で行われた命のバトンふれあい講座の一環として、仙台ターミナルケアを考える会の出前講座を行いました。その中で、老いと死に関する講義を担当させていただきました（他には老人の気持ちを体験するワールドカフェ方式のグループワークや、ホスピタリティに関する講義など）。今年も対象は 3 年生で、皆熱心に聞きグループワークにも積極的に参加していました。ここでは、当日の講演の概要をご紹介します。

1. 医療の限界と医学部教育

この話を聞いてくれている皆さんに質問があります。宮城県民の死亡率は何%でしょうか？質問を変えます。この中で 200 年後に生きている自信がある人はいますか？そうです、人は必ず死にます。確かに、私は医師として救急の現場で死の淵から蘇る患者さんに何人もお会いしましたが、それらの方々とて例外ではありません。ところが私たち医師は大学の医学部で病気や怪我の治し方は習いますが、死ぬ前の人や、治療ができなくなった人に何ができるかを教わることはありませんでした。それどころか、治療ができる人の気持ちの辛さに対して何ができるかきちんと教わりませんでした。今は、そのことがいかに大切であるかを切実に感じさせられています。

2. がん死亡者数の増加

2014 年わが国において、がん死亡した人は年々増加し 36 万 8 千 103 人と記録を更新中です。これは同じ年に交通事故で亡くなった方の 9 0 倍です。「死」が身近になりつつある時代なのです。

3. 人が死ぬ時の兆候

みなさんは、自然な死を迎える人がどのような経過をたどるかご存知でしょうか。最後の時が近くなると、多くの人は眠っている時間が長くなり、呼んでも起きなくなってきました。また、喉が常にゴロゴロとなったり、顎をしゃくるような呼吸をしたりします。手足も冷たくなったり青黒くなったりします。これは人生の締めくくりの時には自然なことなのです。このようなことは、ほとんど知らないですよ。亡くなる人の数が増えているのに、なかなか知る機会がないのは不思議ですよ。

4. 看取りの場所は？

みなさんの中で、お家でおじいさんやおばあさんが看取られたという人はいますか？そうなんです。今はほとんどの方が病院で最期を迎える時代です。ここで資料をお見せします（図1）。信じられないでしょうけど、このグラフのように昭和50年までは家で最期を迎える人の方が多かったんです。ところが、先ほどのように死亡者が増加する一方で、看取りの場所として期待されている病院は年々減少してきています。将来、死に場所が見つけられない看取り難民が数千万人の単位で現れるのではないかと懸念する人もいて、これを医療の2025年問題といいます。みなさんは「科学と慈愛」という絵を見たことがありますか？実はこれはピカソが13歳の時に描いた絵なんです。描かれた1897年は、このように病院医療よりも在宅医療が世界的に当たり前の時代でした。今後の日本もこれに近い状況となっていくかもしれません。

5. 老いるということ

老いる、とはどういうことでしょうか。年齢が高くなること？それだけではないですよ。医学的には身体能力の低下、免疫の低下、気持ちの弱さ、認知機能の低下などが挙げられます。社会の一員としてみた場合は、友達が減ったり、近所づきあいが減ったりする傾向があります。生きる意味を見失う「魂の老い」ということもあります。一方で、人は死ぬまで成長するとも言われます。なお、社会が老いを好意的にとらえるかどうかは、時代や文化によっても変わってきます。

6. 死後の世界について

皆さんは、死後の世界を信じますか？京都府立医科大学の学生アンケートでは、科学を信奉する医学部学生でも4分の1は死後の世界を信じていました。では医学部生以外ではどうでしょう。様々な新聞社の調査のデータを見ると多少のバラつきはありますが4割の人は信じているようです。なお、看護師さんで同じ質問をすると半分以上が死後の世界を信じているそうです。

皆さんは死後の世界とか、科学で説明できない世界があるのを信じますか？ほとんどの人は信じないんですね。それでは信じない皆さんに質問です。星占いやそのほかの占いが気になったことがありますか？結構いますね。初詣でお賽銭を投げてお祈りをした人は？やはり結構いますね。お墓

参りは？ほとんどの人が行ったことがあるようですね。お金しか信用しないような人たちでも高層ビル建築の時は神主さんと呼んで拜んでもらう、等はいまでも当たり前のことです。コストを考えたらいららないと言う人もいそうなのに。そうなんです。私たちは、目に見えるものだけでなく目に見えないものも「そこにある」ことを前提に、または否定せずに生活しているのです。

7. 生まれてきたことが奇跡である理由

皆さんは、自分のご先祖様の家系図をみたことはありますか？なくてもいいのですが、ここで一緒に考えてみたいことがあります。家系図には殆ど女の人が登場してこないことが多いです。そこで、お父さん、お母さん、お父さんの方のお爺ちゃん、お婆ちゃん、お母さんの方のお爺ちゃん、お婆ちゃんを家系図に入れたとして数えてみてください。お父さん、お母さんと足して6人になりますよね。その中の誰かがもしも存在していなかったら…。そうですね、あなたも存在しません。さらにそれを上の世代に遡って考えてみましょう。600年くらい前まで遡ると、209万人のご先祖様が一人でも欠けたらダメということになりますよね。人類の歴史はそんな短いものではないですから、突き詰めて考えると、あなたの存在は天文学的な確率でしか起こらない奇跡の上に成り立っていることがわかります。かけがえのない奇跡の存在なのです。

8. いのちをつなぐということ

最後に、人の死と命の大切さについて考えていただくために、ある映像を見ていただきます。突然に死ぬことになったお父さんと、ご家族の物語です。何かを感じていただけたら幸いです。(秋元康 原作 アニメーション 「象の背中」)

<講演を終えて>

アンケートの結果では、「死を考えることで命の大切さがわかった」「おじいちゃん、おばあちゃんを大切にしようと思った」等、多くの生徒が講演の趣旨を真摯に受け止めてくれていることがわかりました。地道に活動を続けることの大切さを感じました。